内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2005年7月）

◎内海事務総局長から

理事会が、初めて、「事務総局長を信頼して、細かいことは言わずに、ITUの合理化を任せよう」という内容の決議をした。理事会は、事実上、欧米が支配しているので、苦節6年、やっと彼らの信頼を得たというべきか。

実は、とんでもない。合理化の余地がなくなったにもかかわらず、負担金を上げたくないために責任をなすり付け、何とかしてくれということ、さらに、次期事務総局長選挙に立候補を出している欧米にとっては、今のうちに私に、難しい仕事をやらせてしまっておこうという魂胆。

私も負けずに、緊張した労使関係を逆手にとって、このままでは、職員のサボタージュでITUは機能停止すると訴え、ITUが過去に蓄積した準備金を活用する案を逆提案をして勝ち取った。この結果、残された1年半の任期を切り抜けることに見通しがついた。

まるで狐と狸のだまし合い。国連システムは決して理想郷ではない。

◎7月の事務総局長の主な動向

7月11日　WSIS準備会合議長グループ会合（GFC、ジュネーブ）

2003年のWSISで採択された基本宣言と行動計画の具体的な実施メカニズムや今後のWSISの在り方が、11月のWSIS第2フェーズでは取りまとめられる予定で、上記会合でその案文が検討されています。

2015年までに世界中の村々をネットワークで接続するなど具体的な目標が設定されているWSIS行動計画ですから、実現のためには政府、国際機関、民間、市民社会のすべての参加が必要で、その実施メカニズムを可能な限り具体的にWSISの場で同意しておくことが、WSIS行動計画を“絵に描いた餅”に終わらせないために肝心と考えています。ところが一方で、新たな負担を嫌っているのかどうか分かりませんが、WSISの場で具体的な実施メカニズムを合意することを嫌っている関係者もあり、議論が続いています。9月の第3回WSIS準備会合では、インターネットガバナンスとともに、この実施メカニズムが議論の焦点になることが想定されます。

7月12～22日　ITU理事会（ジュネーブ）

・2006-07年予算

この数年、各国の分担単位額が下がり続け、さらに、分担単位数を減らす国もあり収入が厳しくなるなか、6言語の採用や会議数の増加などITUの活動への要望も大きくなり、財政状況が極端に厳しくなりました。これまでは、コストの見直しや活動の効率化で何とか運営してきましたが、その過程では全体職員数の2割に当たる職員の人件費削減も行い、職員のモチベーションを維持するぎりぎりのところまできていました。今回の理事会では、厳しい財政状況が理解されるとともに改めてITUへの期待も確認され、分担単位額が増額されることが認められて予算案が承認されました。

・世界情報社会サミット（WSIS）

WSISの実施におけるITUの果たすべき役割について議論されました。2003年のWSISや現在の準備状況を通じて、国際社会におけるITUの重要性の認知度が高まっていることが評価され、ついてはITUの各加盟国の活動にも良い影響が出ているなど好意的な意見が多くありました。今後とも、ITUが他の関連の国際機関と協力しつつ主導的役割を果たすべきという意見がまとめられました。

・2006年全権委員会議関連

全権委員会議では、今後のITUの運営方針となる戦略計画と財政計画が採択される予定ですが、互いに連携させながら検討することとなり、来年の理事会に提出するための案文を策定する作業班が設置されました。

また、次の全権委員会議では事務総局長をはじめとして各局長の選挙が行われます。その1年半前に当たる今回の理事会では、何人かの候補者の立候補表明がありました。ITUの会議に何度なく参加し貢献している人もあれば、ITUにとっては初顔になる候補者もいます。これから、ITUの会議やWSISなどを通じて、ポリティカルな駆け引きによる選挙戦が繰り広げられていくことでしょう。

一見平和な理事会のエクスカーション
撮影：上、内海正子　下、内海善雄